

編集後記

諸般の事情、特に財政上の困難から、『プロピレア』は今号より電子ジャーナルのみの発行となります。紙の手触りや香りの魅力は言うまでもありませんが、他にも会員の減少、編集部の人材不足、事務局設置場所の問題などから、あえて決断させていただきました。ただし、今度とも広島大学図書館部のご厚意により、電子ジャーナルは発行継続できますので、会員の皆様はふるってご投稿ください（投稿料は無料です）。

今号は、英国で活躍される山形直子さんから「イリアス」をめぐる刺激的なご論考をいただきました。福田耕佑さんにはイスタンプルの知られざる社会を案内していただき、土居英樹さんからはビザンツ期の愛らしい恋歌を、茂木政敏さんからは外国のヘレニストに向けたセフェリスの高らかな宣言の翻訳をいただきました。八木橋正雄さんはここ数号で取り組んでおられるテオクリトスの翻訳です。前回に続き、其原哲也さんと藤下幸子さんは『ミハリス隊長』と『グレコへの手紙』で、カザンザキス翻訳の揃い踏みとなりました。残りの部分も恙なく完成されるよう、お祈りいたしております。（橘）

処分が決まったプロピレアのバックナンバーを束ねつつ今年度いっぱい事務局が広島から離れることに一抹の淋しさを感じました。

当会の前身であるギリシア語・文学研究会を立ち上げるために有志が集ったのは移転前の広島大学でした。事務局は移転先の広島大学教育学部（浮田先生の研究室）に置かれ会議やプロピレアの編集と発送作業は全てここでおこなわれました。浮田先生の退職後は文学部言語学研究室に移りおもに当会が所蔵する書籍をここに保管させてもらいました。すでに運営委員会や研究発表会がオンラインで実施されるようになっており、もはや事務局は「人が集まり活動する場所」ではなくなっていました。

来年度、事務局が大阪に移設されることにともない、プロピレアの編集や会の運営に関わる委員の体制も持続可能なものに刷新されていくことが望まれています。また、会員の皆さまへの連絡はホームページでおこなわれる予定です。

ただ、今までお会い機会がなかった会員の皆さまと直接お目にかかれる場が皆無になってしまわないよう尽力したいと思います。（佐藤）